

2026.7月号 No.196

JFPI REPORT

第41回 定時総会
役員改選、大橋輝臣氏が新会長に就任

2025年度 活動概況

2026年度 事業のあらまし

2 第41回 定時総会

8 2026年度 役員名簿
2026年度 委員会組織図
2026年度 収支予算計算表

11 2026年度 事業のあらまし

18 新たなビジネス事例
印刷イノベーション最前線！ 第5回
高品質重視の同人誌・グッズ製作で新市場を開拓 株式会社 緑陽社

20 プライバシーマークニュース
2025年度 個人情報に関する事故報告／プライバシーマーク付与事業者のご紹介

22 グリーンプリンティングニュース
昨年度、新たに18工場がGP工場になりました。誠におめでとうございます！／グリーン購入法に「グリーンプリンティング認定」が明記された効果／グリーンプリンティング公式キャラクター「ジッピー」誕生！／2026 GP環境大賞等 表彰式 & 「印刷と私」トークショー 開催決定！

24 最近の活動から
第65回 ジャパン パッケージング コンペティション（JPC）授賞式／「第59回造本装幀コンクール」審査会

25 会員ニュース
印刷工業会／全印工連／日本フォーム工連／ジャグラ／全製工連／全日本シール／
全国グラビア／GCJ／全日本スクリーン・デジタル／全日本光沢化工紙

31 JFPI-NOTE（2026年4月～6月）

32 事務局だより

第41回 定時総会

役員改選、大橋輝臣氏が新会長に就任

一般社団法人 日本印刷産業連合会（麿 秀晴会長）は、第41回 定時総会を6月10日（水）、東京・紀尾井町のホテルニューオータニ「おり鶴 舞の間」で開催した。2025年度は、好調なインバウンド需要や高水準の賃上げが景気を支える一方、物価上昇と人手不足が景気全体の回復を鈍らせた。また中東情勢を背景とした原油価格の上昇は、印刷産業にも大きな影響を与えている。その中で日印産連は、印刷産業の価値向上、事業基盤の強化、新ビジネスの創出、人材獲得・育成に向け連携・共創に取り組んできた。2026年度は重点事業を「健全な商取引の実現」「環境政策の推進」「新ビジネス創出の支援」「事業基盤の見直し」の4つとし、会員10団体とともに各プロジェクトにより具体的に推進していく。

議場では、第1号議案「2025年度 事業報告並びに決算報告」、第2号議案「2026年度 事業計画並びに収支予算」、第3号議案では理事・監事の任期満了に伴う「役員選任」が審議され、それぞれ原案通り可決した。続いて開催された第2回理事会で、共同印刷(株) 代表取締役社長の大橋輝臣氏を第14代会長に選任、役員38名と監事3名（別掲 p.8 参照）による新体制がスタートした。またステアリング・コミティと顕彰委員会の委員長は堆 誠一郎氏に委嘱された。

総会後には会場を移し、新体制のスタートを祝う懇親会が華やかに開催された。

第41回定時総会は、麿会長を議長に議事録署名人として田中祐氏（全日本シール印刷協同組合連合会）が指名され、3件の議案の審議に入った。各議案については事務局の緒方専務理事、高島常務理事より以下のように報告された。

2025年度 事業活動報告

■常設委員会活動／顕彰委員会

●ステアリング・コミティ

会員10団体の会長及び専務理事を中心メンバーとして、経産省を初めとする行政各省庁や外部団体と連携し、印刷業界の諸課題を共有ながら対策を検討した。

委員会での主な議案（決議事項）は、「事業報告・決算報告」「事業計画・収支予算」「9月印刷の月・新年交歓会等の主要行事」「日印産連表彰・GP環境大賞等表彰」など。

また取引適正化推進に向けた施策や環境政策についても議論された。

■新たな産業イメージの構築と業界内外への発信

●新たな産業の定義プロジェクト

「日印産連グランドデザイン2030」を踏まえ、印刷産業を取り巻く環境変化の情報収集・発信の基盤づくりの段階と位置づけ、「新たな産業のイメージ」を共有するための取り組みを推進し、業界内での共通認識の醸成に着手した。

年報 Annually Reportに、印刷産業の周辺領域に関する市場動向を追加掲載した。具体的には「BPO」「デジタルマーケティング」「高機能包装材料」「メタバース」など。

印刷産業の成長の可能性を見据え、先進事例を収集し、Webニュースレターとして配信した。政府統計の速報的な情報発信も実施。これらの先進事例は「印刷イノベーション最前線」としてJFPI REPORTに連載している。

●広報部会

ホームページの不要項目の整理・削除や更新メニューの再編といった基礎的な改修を行った。

印刷産業に関するデータ及び関連資機材データを収集・分析し、定期的に日印産連Webサイトに掲載し、無償で公開している。

機関誌 JFPI REPORTを年度4回発行、マスコミ懇談会も開催した。

●印刷文化振興

主催4コンクール【全国カレンダー展】【全国カタログ展】【ジャパン パッケージング コンペティション】【造本装幀コンクール】を開催した。第77回 全国カレンダー展・第67回 全国カタログ展の表彰式は、合同形式で行い、コロナ以降初となる懇親会も同時に開催した。また、同展の合同展示会の開催と併せて行ったチャリティーカレンダーの販売金を、産経新聞厚生文化事業団の「あけみちゃん基金」に寄付した。

「9月 印刷の月」記念式典を開催し、京極夏彦氏による特別講演会と記念式典では40周年特別表彰・日印産連表彰を行った。

●日印産連40周年記念イベント

第66回 全国カタログ展で文部科学大臣賞を受賞した『ファインペーパー×シルクスクリーン×デザインが魅せる世界』のトークイベントを開催した。熊沢印刷工芸株のカタログ制作プロセスを紹介し、紙・印刷・デザインのそれぞれの立場から熱いメッセージを語っていただいた。

●「第58回 造本装幀コンクール2025」作品展示

出版クラブビルに於いて、コンクールの受賞作品をはじめとする全応募作品308点を公式展示した。また、誠品生活日本橋・誠品書店とコラボスペシャル展示を行った。

■事業基盤の強化

●パートナーシップ推進プロジェクト

「パートナーシップ構築宣言」の企業数を増加させるため、日印産連の役員企業及び会員10団体の役員企業の宣言率100%を目指し要請した。結果、日印産連の役員企業については、2025年度内に100%を達成した。

「下請適正取引の推進に向けた自主行動計画」のフォローアップ調査を10月に実施。業界特有の取引慣行（無償対応、



議長を務める麿秀晴会長

過剰品質、物流・保管負担等）に着目し、実務レベルに即した設問設計を行い、印刷10団体に加盟する会員各社に回答を依頼、調査結果を取りまとめて経済産業省に提出した。またHPにも調査結果を掲載し、10団体へ周知を行った。

●コンプライアンス推進部会

独禁法WGでは、大日本印刷㈱の委員を講師に「独占禁止法 ～談合・カルテル等の禁止と留意点～」セミナーを会場で1回、オンラインで2回開催した。

経済産業省に10団体と連名で「2026年度 税制改正要望書」を提出した。

●取引適正化に向けた取組の概要

「下請適正取引の推進に向けた自主行動計画」の業界内実態調査を年2回実施予定。現在1回目の集計を行っている。日印産連HP上に匿名対応を含む報告・相談窓口を設け運用を開始した。

●知的財産部会

著作権制度をはじめとする知的財産関連法制の動向に加え、生成AIを含むAI関連分野についても取り上げ、情報共有および調査・研究を実施した。

●情報セキュリティ部会

10団体へのヒアリング結果を反映して、一般向けコンテンツ、経営者向けコンテンツ、経営者・情報セキュリティ担当者向けセミナー、一般向け基礎セミナーの4つを柱に活動を進めた。

●環境政策検討プロジェクト

これまでの環境保全のさまざまな取り組みに加えて、さらに持続可能な社会の実現に向けて貢献していくため、「印刷産業環境ビジョン2050」を掲げた。重点項目は ①脱酸素社会の実現 ②循環経済の深化 ③自然共生社会の推進。今後このビジョン達成に向けて環境



緒方専務理事

高島常務理事

飯島常務理事



政策に取り組む。

●労働安全衛生部会

「労働衛生、化学物質管理」を優先テーマとして取り組み、活動を進めた。「新たな化学物質管理規制」に関するセミナーを2回開催、参加者は経営者をはじめ工場長、作業環境管理担当者など。

中央労働災害防止協会の緑十字賞表彰に印刷工業会会員企業より1件の応募があった。

●環境マネジメント部会

カーボンニュートラル行動計画、循環型社会形成自主行動計画、VOC排出抑制自主行動計画の3つの自主行動計画について、会員企業へのアンケート調査を通じて取り組み状況を把握し、フォローアップ調査票として経済産業省並びに経団連に提出した。カーボンニュートラル、資源循環は目標を達成、VOCはわずかに目標を下回った。

●グリーンプリンティング推進部会

GP環境大賞、GPマーク普及大賞、GP資機材環境大賞の選考・表彰を実施した。出版クラブホールで行われた表彰式に続き、ゲストにノンフィクション作家の野地秩嘉氏を迎え、小山薫堂氏と9回目となる「印刷と私」トークショーを開催した。

グリーンプリンティングPRキャラクター「ジッピー」を周知活動のツールとして様々なPR活動を展開する予定。

「環境物品等の調達に関する基本方針」が見直され、「基準値1」の要件にグリーンプリンティング認定制度が明記された。

■新ビジネス創出の支援

●先進事例の収集・発信

JFPI REPORTの連載企画を「印刷イノベーション最前線！」へと改変し、これまでのプロダクトにとどまらず、ビジネスモデル、技術開発、新サービス、市場開拓等を含めた多面的な取組を対象とする事例を収集し、印刷産業の将来を見据えた情報発信を新たに開始した。これらの取組により、個別企業の先進的な取組を可視化し、業界内における変革の兆しや方向性に関する理解の深化に資する情報の整理を進めている。

■次世代人材獲得・支援育成／外国人労働者雇用支援

製造分野特定技能1号評価試験有識者委員会に認定3団体とともに引き続き参加し、印刷・製本区分の評価試験制度の安定的運用に協力。また一般社団法人工業製品製造技能人材機の正会員として、製造業分野の特定技能外国人の適正・円滑な受入れ体制の確立に寄与した。

■審査・認定事業活動

●プライバシーマーク審査事業

新規取得事業者は1件で、2023年度と2024年度の実績から見込んだ計画を5件下回った。事業者合併と廃業の影響により、更新辞退事業者は2023年からの3年間で51社となる。収入も対2023年度で7,274千円減少した。審査センター運営方法の改革を進める。

「個人情報保護マネジメントシステム内部監査員セミナー」を開催した。

●グリーンプリンティング認定事業

2025年度のGP工場認定は、新規認定が18工場、更新認定（3年毎更新）は141工場であり、現在GP認定工場は444工場となった（2026年3月末現在）。GP製品認定（GPマーク表示）部数は、2006年10月からの累計で14億部を超えている（2026年3月末現在）。GP資機材認定制度は、12種類（48メーカー）の認定を行っており、2026年3月末において累計1,275製品を認定している。

2006年度下期から2025年度末までのGPマーク製品の表示状況は、累計で約80,000件、印刷部数約14億部となった。

2025年度 決算報告

事業活動収入合計2億2,566万7,616円、これに対して事業活動支出合計2億2,227万4,770円となり、事業活動の収支差額は339万2,846円。投資活動収支差額は▲1,418万3,375円で、当期収支差額は▲1,089万5,243円、前期繰越収支差額1,735万8,683円を加えて、次期繰越収支差額は646万3,440円である。

議長は監査状況の説明を求め、町田誠司監事が監査結果の報告を行ったのち議場に諮り、全員異議なく原案通り可決した。

2026年度 事業計画

2026年度は前年度の重点事業を引き継ぎ「健全な商取引の実現」「環境政策の推進」「新ビジネス創出の支援」「基盤事業の見直し」の4つとする。価格転嫁促進、取引適正化に向けた取り組み等、健全な商取引の実現を目指す【取引適正化推進プロジェクト】、印刷産業環境ビジョン2050に沿った環境政策を推進していく【環境政策推進プロジェクト】【優良事例の収集・発信プロジェクト】等により、会員10団体とともに具体的に推進していく（詳細はP.11～「2026年度 事業のあらまし」参照）。



監査報告を行う町田誠司監事

2026年度 収支予算

事業活動収入合計 2億3,078万5千円、事業活動支出合計 2億3,257万8千円、事業活動収支差額は△179万3千円。これに投資活動収支差額などを合わせ、当期収支差額は21万7千円。前期繰越収支差額646万4千円を加え、次期繰越収支差額は668万1千円を計上したと説明し、議案を上程した。議長がこれを議場に諮り、全員異議なくこれを原案通り可決した（P.10参照）。

最後に全印工連・瀬田会長より「取引適正化に関する実態調査結果を活用し、実際の価格転嫁に結びつく形で速やかかつ強力に推進していただきたい」との意見が述べられた。

役員選任の件

今年は役員全員の任期満了にあたり、新たな理事候補者38名と監事候補者3名の承認が議場に求められ、選任が決定された。

議長はすべての議案が審議を終えたことを告げ、第41回定時総会は閉会した。

総会後に懇親会を開催

総会後は会場を「麗の間」に移し、来賓に経済産業省商務・サービスグループ 文化創造産業課 クリエイティブ産業室の荻野洋平室長と上田明弥様、ほか多数の賛助会員の方々を迎え懇親会を開催した。

冒頭、新たに会長となった大橋輝臣氏が挨拶に立ち、「第14代目会長に就任いたしました。微力ではございますけれども誠心誠意、会長の職を努めさせていただきたいと思っております。前任の磨会長は2年間の任期に於かれまして、様々な施策にお力を注がれました。その中でも特に、長年に渡り続いてきた商習慣の見直しを図り、取引の適正化、価格

2026年度 第2回理事会開催

総会の閉会に続き第2回理事会が開催された。出席者は理事32名、監事2名、議事録署名人は奥継雄監事、田畠義之監事が務めた。

開会に先立ち、磨会長は「去る5月20日に行われた印刷工業会の総会において会長を退任いたしました。それに伴い本日の総会をもちまして当連合会の会長職を退任させていただきたい」と発言、新会長及び役員の選任方法を議場に求めた。GCJの錦山慎太郎会長より、推薦委員会の設置と推薦委員の選任は議長に一任する旨の提案があり、満場異議なく承認された。これを受けて議長は、推薦委員に会員10団体代表者を、推薦委員会の委員長に全国グラビア協同組合連合会の田口薫会長を指名した。

別室で行われた推薦委員会での協議終了後に理事会が再開、田口推薦委員長より「会長に印刷工業会会長・大橋輝臣氏を推薦いたします。役員選任については、新会長に一任したい」との提案があり、全員異議なくこれを承認した。以降の審議にあたっては大橋新会長が務めた。

副会長に堆誠一郎氏、瀬田章弘氏、小林友也氏の3名と、専務理事に高島淳一氏、常務理事に飯島由紀氏、佐藤久恒氏の2名、常任理事22名、顧問には藤森康彰氏、相談役に浅野健氏が指名され、異議なく可決決定した（P.8 役員名簿に掲載）。

常設委員会および顕彰委員会委員長の件に関しては、ステアリング・コミTEEと顕彰委員会の委員長として堆誠一郎氏が推薦され、承認を受けた。

議長はすべての議案が終了したことを告げ、続いて退任役員7名と新任役員9名が紹介されると、会場から大きな拍手が送られた。



新会長に就任した大橋輝臣氏

転嫁の推進に向けて具体的な取組を開始されました。私はそれを引き継ぎ、会員企業の皆さんが直面する課題に対し、より実務的で現場に寄り添った活動を強化して参りたいと考えております。本日の総会でご承認いただいた事業計画に基づき、業界関連団体、サプライヤーとの連携を深め、業界全体としての発信力を高めることで、基盤産業としての印刷産業の存在感を社会に示していく所存であります。私たちの産業は長い歴史の中で幾度も変化の波を乗り越えてきました。今こそ業界が丸となり、次の時代にふさわしい姿へと進化していく時と考えております。印刷産業の



持続可能性を確信し、明るい未来を実現して参りたいと思います」と抱負を述べた。

次に来賓を代表して経済産業省 荻野洋平氏よりご挨拶をいただいた。総会終了と懇親会開催へのお祝いの言葉の後「地域の個別ニーズや実情に合わせ創意工夫を重ねながら様々な事業を展開されている印刷産業は、まさに日本の国民生活を支える大切な産業だと思っています。その中でも貴連合会は1985年の設立以来、印刷業界の中核として各団体を支えながら、印刷業界の構造化と健全な発展に尽力され、それによって我が国の産業活動や生活向上に多大な貢献をしていただいていると思っています。鷹前会長は昨年設立40周年を機会に、印刷業界のミッションとして最適なコミュニケーションをデザインすることが必要であると、グランドデザイン2030を推進されました。大橋新会長につきましても、この動きをさらに発展させていただければと思います。ぜひ一緒に取り組んでいきたいと思っています。

最後に中東情勢でございます。印刷業界においてもインキ、パッケージのプラスチックを初めとする石油製品の原材料であるナフサの供給不安など様々な課題がある中で、日々のサプライチェーンを支えていただいていることに、お礼を申し上げます。

供給体制については、政府全体で全力を挙げて取り組んでいるところです。日本全体としてのマクロの供給は比較的確保できており、年度を超えて供給可能であることも見据えています。しかしそれで全てOKだと思っているわけではありません。現に一部供給の偏りや目詰まりが発生している状況です。段階的な供給も、残念ながらタイムリーなコミュニケーションができていないため、目詰まりに陥ってしまっているケースもありますし、一方で過剰発注のような話も聞いています。これらについては個別に対処を進めているところ

です。

我々は“今、何が起きているのかという情報のインプット”が大変ありがたいと思っています。本日は皆さんからもお話を伺いたと思いますが、経済産業省のHP上にも供給に関する情報提供窓口がありますので、ぜひ様々な情報をお寄せいただければと思っています。我々も供給を確保しつつ、引き続きひとつひとつ対処を進めて参りますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします」と述べた。

拍手に包まれ登壇した鷹前会長より退任の挨拶が述べられた。「2年間活動を支えていただきました会員10団体の会長並びに役員の皆様、ご指導ご支援をいただきました賛



大橋輝臣新会長 挨拶



鷹秀晴前会長へ花束贈呈



ご来賓挨拶 経済産業省 荻野洋平氏



瀬田章弘副会長による乾杯発声

助会員の皆様に心より御礼を申し上げます。この2年間で振り返りますと、原材料費やエネルギーコストの上昇が止まらず、物価上昇分を確実に転嫁することと、長年続いてきた不適切な商習慣の見直しが、業界における喫緊の課題となりました。日印産連はこうした中、業界内の取引実態調査の実施と適正ではない取引に関する報告、相談窓口の開設など取引正常化に向けた新たな取り組みを開始し、課題解決に向けた端緒を開いてまいりました。

今後は大橋新会長のリーダーシップのもと、10団体との連携をさらに深め、印刷産業の事業変革とサプライチェーン全体での健全な商取引が実現することを、心から願っております。皆様には倍旧のご指導ご支援お願い申し上げますとともに、印刷産業のますますの発展を祈念しまして、退任の挨拶とさせていただきます。大変ありがとうございました」との言葉に盛大な拍手が送られ、感謝の気持ちを込めた花束が贈呈された。

続いて乾杯に移り「磨前会長は日本を代表する企業のメイン経営者であります。我々中小の印刷業に対しても非常に真摯に向き合ってくださいる方で、大変ご尽力いただいたことに厚く感謝しております。今後とも大所高所からご指導いただけますよう宜しくお願いいたします。そして大橋新会長、役員一同しっかり束になって我々の諸課題解決に向けて一致団結して邁進して参りたいと思いますので、ぜひ強いリーダーシップで我々10団体を牽引していただ

ますよう、お願い申し上げます。

それでは、一乾杯は杯を干すを書く、全部干せーとの浅野相談役のルールに則り、元気な方、そしてまだまだ私は若い方とっていらっしゃる方は、一気に杯を干していただきたいと思っております。日印産連のますますのご発展と、皆様のご多幸を祈念申し上げまして、乾杯の発声を取らせていただきます。乾杯！」との瀬田章弘副会長のご発声で賑やかに開宴した。

歓談の続くなか、前副会長の添田秀樹氏、前常任理事の岡本泰氏、高橋秀明氏、前監事の町田誠司氏、退任となった前専務理事の緒方宏俊氏の5名が壇上に紹介され（舟橋前常任理事、中本前理事は欠席）、その多大な功績に敬意を表し、最大な拍手が送られた。

続いて新しく常任理事に就任した大矢諭氏、北原整氏、高浪貴裕氏、雨宮昌平氏と新理事となる常盤誠氏、中村盟氏、新監事の奥継雄氏、田畠義之氏の8名が壇上に紹介され（小島理事は欠席）、新任を祝す暖かな拍手が送られた。

いよいよ懇親会も終盤を迎え、中締めにした堆誠一郎副会長の「日印産連に新しい風が吹いたところです。皆さんご存知のように資材難、人材難と問題はたくさんあって、それをクリアしていかなきゃいけない。新しい大橋会長のもとに日印産連が一致団結し、業界が盛り上がることを祈念いたしまして……お手を拝借」の言葉に続く、活気ある三本締めによって懇親会は終了した。



懇親会出席の退任役員 5 名



懇親会出席の新任役員 8 名



堆副会長による中締め

2026年度 役員名簿



会 長
大橋 輝臣



副会長
堆 誠一郎



副会長
瀬田 章弘



副会長
小林 友也



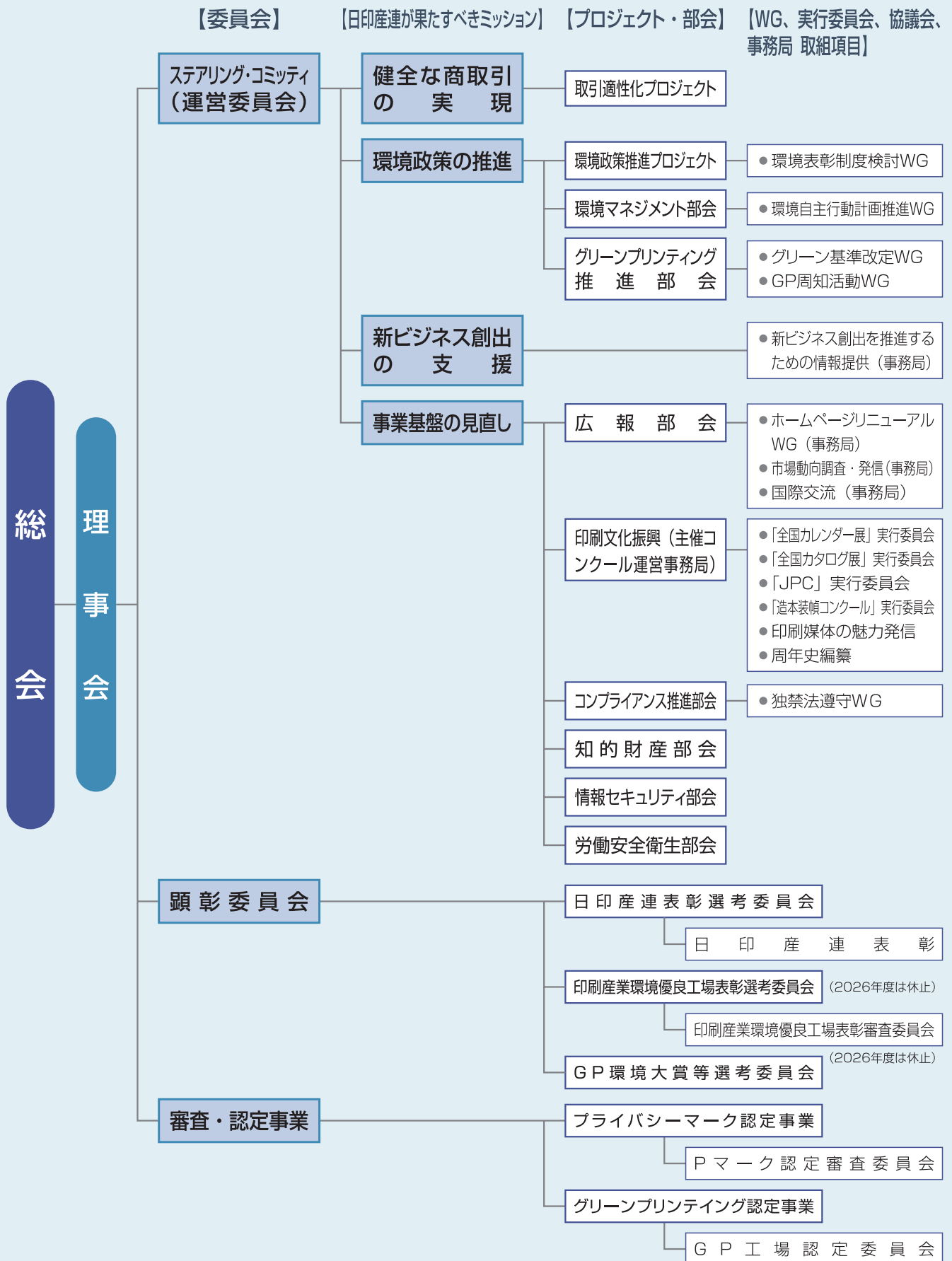
顧問
藤森 康彰



相談役
浅野 健

会 長	大橋 輝臣 (昇任)	印 刷 工 業 会
副 会 長	堆 誠 一 郎	印 刷 工 業 会
〃	瀬田 章弘	全日本印刷工業組合連合会
〃	小林 友也 (昇任)	日本フォーム印刷工業連合会
専務理事	高島 淳一 (昇任)	専 従
常務理事	飯島 由紀	専 従
〃	佐藤 久恒 (昇任)	専 従
常任理事	北島 義齊	印 刷 工 業 会
〃	大矢 諭 (新任)	印 刷 工 業 会
〃	岡沢 宏和	印 刷 工 業 会
〃	佐藤 裕芳	印 刷 工 業 会
〃	岩岡 正哲	印 刷 工 業 会
〃	岩尾 純一	印 刷 工 業 会
〃	嶋山 芳夫	印 刷 工 業 会
〃	北原 整 (新任)	印 刷 工 業 会
〃	高浪 貴裕 (新任)	印 刷 工 業 会
〃	橋本 唱一	全日本印刷工業組合連合会
〃	福田 浩志	全日本印刷工業組合連合会
〃	酒井 良輔	全日本印刷工業組合連合会
〃	高本 隆彦	全日本印刷工業組合連合会
〃	雨宮 昌平 (新任)	全日本印刷工業組合連合会
〃	松本 康宏 (昇任)	日本フォーム印刷工業連合会
〃	原田 大輔 (昇任)	(一社)日本グラフィックサービス工業会
〃	田中 真文	全日本製本工業組合連合会
〃	田中 祐	全日本シール印刷協同組合連合会
〃	田口 薫	全国グラビア協同組合連合会
〃	錦山 慎太郎	日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会
〃	内藤 正和	全日本スクリーン・デジタル印刷協同組合連合会
〃	木村 亨	全日本光沢化工紙協同組合連合会
理 事	有松 敏樹	印 刷 工 業 会
〃	下谷 友康	印 刷 工 業 会
〃	大橋 幸成	印 刷 工 業 会
〃	常盤 誠 (新任)	印 刷 工 業 会
〃	江森 克治	全日本印刷工業組合連合会
〃	岸 昌洋	全日本印刷工業組合連合会
〃	大洞 正和	全日本印刷工業組合連合会
〃	小島 武也 (新任)	全日本印刷工業組合連合会
〃	中村 盟 (新任)	(一社)日本グラフィックサービス工業会
監 事	田中 昌夫	公 認 会 計 士
〃	奥 継雄 (新任)	印 刷 工 業 会
〃	田畠 義之 (新任)	全日本印刷工業組合連合会
顧 問	藤森 康彰	印 刷 工 業 会
相 談 役	浅野 健	印 刷 工 業 会

2026年度 委員会組織図



2026年度 収支予算計算表

2026年 4 月 1 日から
2027年 3 月31日まで

(単位：千円)

科 目	2026年度予算	2025年度予算	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
基本財産運用収入	95	6	89	入会金・写研基金利息
正会員会費収入	67,800	67,800	0	10団体会費（2023年度より全面見直し）
賛助会員会費収入	14,850	14,600	250	1社1口増（デジタルコンテンツ協会）
事業収入				
①認定事業収益	123,588	122,686	902	
・プライバシーマーク認定事業収入	86,816	79,046	7,770	前年比＋9.8%（審査件数前年比＋22社）
・グリーンプリンティング認定事業収入	36,772	43,640	▲6,868	前年比▲15.7%（審査件数前年比▲21社）
②機関誌広告収益	2,900	2,900	0	新年協賛広告及び通常広告収入
③資料等販売収益	100	120	▲20	今期は新規資料の発行なし
④その他収益	16,150	16,150	0	新年交歓会、印刷の月、内部監査員セミナー 他
受取負担金	22	22	0	（財）日本規格協会著作権料
雑収入	5,280	5,780	▲500	印刷図書館、印刷会館からの業務受託費 他
事業活動収入計	230,785	230,064	721	
2. 事業活動支出				
事業費支出				
①運営・顕彰委員会費支出	62,440	58,780	3,660	
・健全な商取引の実現	50	200	▲150	自主行動計画推進 ▲150千円
・環境政策の推進	5,250	5,800	▲550	GP周知活動 ▲500千円他
・新ビジネス創出の支援	1,500	1,880	▲380	新産業イメージ発信PT ▲200千円 他
・事業基盤の強化	47,990	46,550	1,440	HPメンテナンス ▲500千円、社会責任報告書＋2,000千円、印刷媒体の魅力発信＋2,500千円、関係団体との関係 ▲1,000千円、40周年史制作 ▲520千円 他
・刊行物発行事業	3,000	0	3,000	環境法規集改訂版発行
・顕彰委員会	4,650	4,350	300	日印産連表彰、GP環境大賞を開催
②認定事業支出	118,083	114,914	3,169	
・プライバシーマーク認定事業費支出	84,868	80,492	4,376	審査関係費用及び人件費増加
・グリーンプリンティング認定事業支出	33,215	34,422	▲1,207	審査関係費用減少 他
事業費共通費支出	23,237	30,779	▲7,542	人件費 ▲6,803千円 他
管理費支出	28,818	29,677	▲859	定時総会費用＋2,700千円、人件費 ▲3,388千円 他
事業活動支出計	232,578	234,150	▲1,572	
事業活動収支差額	▲1,793	▲4,086	2,293	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
特別広報活動積立預金取崩	9,500	9,300	200	GP審査システム構築 4,900千円、40周年史 3,160千円他として取崩
投資活動収入計	9,500	9,300	200	
2. 投資活動支出				
写研基金利息積立預金支出	14	3	11	
退職給付引当預金支出	1,218	1,266	▲48	職員退職引当金繰入
固定資産取得支出	4,900	1,800	3,100	前期はGP資機材システム改修、今期はGP工場認定申請・審査システム構築
投資活動支出計	6,132	3,069	3,063	
投資活動収支差額	3,368	6,231	▲2,863	
法人税等充当金	1,358	2,029	▲671	
当期収支差額	217	116	101	
前期繰越収支差額	6,464	17,359	▲10,895	
次期繰越収支差額	6,681	17,475	▲10,794	

2026年度 事業のあらまし

I 常設委員会・事業活動／顕彰委員会

① ステアリング・コミッティ（運営委員会）

1. 委員会の業務分掌

《本会の基本政策立案、及び行政並びに各事業活動の連携と調整を図る委員会》

2. 委員会事業の概要

- (1) 日印産連の基本政策の立案と検討、決定を行う。
- (2) 各事業活動の方針を策定し、部会活動内容の確認、検討、決定を行う。
- (3) 経済産業省など行政関係各省庁との連携を図り、印刷業界の課題を検討する。
- (4) 会員10団体の会長及び専務理事を中心に構成、テーマに応じて各部会やWGの部会長も会議に出席し、各部会活動の課題を共有し討議・解決し決定事項に実効性を持たせる。
- (5) ステアリング・コミッティで新たな検討課題や取り組みを議決する際には、早期解決を図るために、必要に応じて「臨時専務理事会議」を開催することがある。また、テーマによっては新たなプロジェクトやWGを立ち上げ、調査・検討し課題を検討する。

② 健全な商取引の実現

1. 活動の概要

サプライチェーン全体の価格転嫁促進、取引適正化に向けた取り組み等、健全な商取引を推進していく。

2. プロジェクト／部会／WG

①取引適正化プロジェクト 【団体指定・選択】	□取引適正化に関する実態調査の継続的な取組。 * 取引実態の把握と取適法遵守の自主点検を目的に、会員団体加盟企業への実態調査を年2回実施予定。 * 結果を分析し、課題のある業界団体・企業、同業間取引の場合は会員団体へ改善要請を行う。 * 不正取引に関する業界独自の報告問い合わせ窓口を設置し、情報収集、相談、助言、行政との連携により取引先との改善交渉を支援する。 * 調査結果、相談内容については、会員10団体、原課及び中企庁に報告し、対応を相談・協議する。 * 会員会社の価格転嫁交渉の一助となる資材、労務費、エネルギーコスト等の価格上昇の一覧資料の作成・更新。 □取引適正化の遵守に関する活動を行う。 * 「パートナーシップ構築宣言」企業数を増加させるため、会員10団体の役員企業の宣言率100%を目指し、10団体会長に賛同を要請する。 * 「適正取引の推進に向けた自主行動計画」を印刷業界全体で遵守していくため、会員10団体の会長・専務理事が集まる会議及び日印産連の会員向け機関誌や、会員向けセミナーの開催等により、繰り返し周知を行っていく。 * 最上流の委託事業者であるクライアント企業が加盟する業界団体に対し、価格転嫁及び商習慣の見直し等取引改善の渉外活動を強化する。 * フォローアップ調査を行い、遵守状況を把握する。
----------------------------------	---

③ 環境政策の推進

1. 活動の概要

印刷産業環境ビジョン2050に沿った環境政策の推進。

2. プロジェクト／部会／WG

①環境政策推進プロジェクト 【日印産連内プロジェクト】	□印刷業界として取り組むべき地球環境活動について、本年度は日印産連環境ビジョンの理解・浸透を深める活動を行う。 * 環境ビジョンの理解・浸透の促進による活動推進。 ・印刷産業環境ビジョン2050（脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会等）に沿った具体的活動内容の策定・制度設計も討議する。 ・GP制度への連携、落とし込みを実施する。
---------------------------------------	---

	・会員10団体の環境活動との連携・支援も行う。 * 環境表彰制度検討WGにて引き続き、環境表彰制度の深化・充実に向けての制度設計を継続する。
②環境マネジメント部会 【10団体必須】 ■環境自主行動計画推進WG 【団体指定・選択】	☐ 印刷産業の事業活動における環境負荷低減活動の実績収集と環境自主行動計画のフォローアップを中心に活動する。 * 印刷業界の環境目標策定と活動進捗のフォローアップ。 * 環境関連法規集（2027年版）の改訂にあたり、WGを発足し、改訂作業にあたる。 * 法令、リサイクル関連法令等（プラスチック資源循環促進法、容リ法等）の法令改正に伴い対応の必要性を判断し、対応策を検討する。 * 関連業界、行政等との連携を深め、業界諸問題の解決を図る。 * 「CLOMA普及促進部会」の活動状況の共有及び「J4CE」やその他団体の活動状況の情報発信を行う。 ☐ カーボンニュートラル行動計画、循環型社会形成自主行動計画、VOC排出抑制自主行動計画の目標設定とフォローアップのため、実績アンケート調査、結果集計、年度報告書を作成し所管部署に提出する。
③グリーンプリンティング推進部会 【10団体必須】 ■グリーン基準改定WG 【日印産連環境政策プロジェクト】 ■GP周知活動WG 【団体指定・選択】	☐ 「印刷産業環境ビジョン2050」実現に向けたグリーン基準改定を基軸にGP認定基準への反映、普及周知活動を図っていく。 ☐ GP工場が「印刷産業環境ビジョン2050」を実現するためのグリーン基準改定を実施する。 * GP認定基準へ実装するための諸課題（適用時期、スコアリング、必須項目）への対応を10団体と慎重に協議し推進する。 * グリーン基準改定対応のための支援メニュー（セミナー、アドバイザー制度）を拡充する。 ☐ 業界内外に向けたGPマーク認知度向上のための活動を行う。 * GP環境大賞、GPマーク普及大賞、GP資機材環境大賞実施。 * 小山薫堂PR大使によるトークショー、新規GP活動の実施。 * コンテンツ（アニメーション動画）およびキャラクター（ジッピー）を活用したクライアント・一般消費者への積極的な訴求活動の展開。 * ケーブルテレビ（JCOM）による認知拡大番組制作、放映。

④ 新ビジネス創出の支援

1. 活動の概要

新たなアワードの設立や好事例の共有化などを通じて、新たな事業領域への開拓を支援する。

2. プロジェクト／部会／WG

①新ビジネス創出を推進するための情報提供 【事務局】	☐ 既存の印刷事業に限らず、印刷領域以外に進出した事例、新たなビジネスモデル、技術開発、新サービス、新市場開拓、地方創生・地域活性化等の先進事例を収集・発信する（印刷イノベーション最前線）。更に業界内外に向けて、HPやイベント、勉強会、セミナー、ショーケース等の先進事例の発信方法を検討、併せて新規事業を担える人材育成についても検討。 ☐ 10団体の要望に応じて、大手印刷会社のソリューション、サービス等の情報を提供し、団体加盟企業にとって新ビジネス創出のきっかけに貢献する。
---	---

⑤ 基盤事業の見直し

1. 活動の概要

定常業務の役割・機能を見直し、強化・再整備する。

2. プロジェクト／部会／WG

①広報部会 ■印刷文化振興 （主催コンクール運営事務局） 【各コンクール実行委員会】 【団体指定・選択】 ■業界ブランドイメージ向上 【事務局】 ■「9月印刷の月」企画立案 【事務局】	☐ マルチステークホルダーに向け、広く印刷文化、印刷の魅力をアピールしていく。 * 4大コンクールの開催 ・全国カレンダー展・全国カタログ展・ジャパン パッケージング コンペティション（JPC展）・造本装幀コンクールの開催。 - 伝統ある上記コンクールを通して印刷メディアの価値を発信する。またコンクールの魅力を再認識してもらえるように、各種業界内イベントとの連携など、一般生活者の情報発信・展示の充実を図る。 * 紙のポジティブキャンペーンの実施 ・印刷文化、印刷媒体の魅力発信・ポジティブキャンペーンの企画、他団体と連携して印刷メディアの価値の発信を強化していく。【当面事務局にて推進、その後10団体連携】 * Girls Who Print Japanの活動推進を通じて、印刷業界における女性活躍と多様性を可視化する。その発信により、業界の社会的評価とブランドイメージの向上を図る。 * IGAS 2027への準備 * 「9月印刷の月」における企画立案と運営 ・講演会などを通じて業界全体が、コミュニケーションを強化できる企画を検討し、印刷産業が持つ価値の再認識や活性化を促進する。
---	--

■ ホームページリニューアル 【事務局】 ■ 周年事業 【事務局】	□ 新たな印刷産業イメージ・情報の発信。 * トップ画面の改修を起点に、取引相談窓口・実態調査等の新設機能の運用ルールを整備するとともに、予算を踏まえつつ年度ごとに改善方針を整理し、会員が安心して利用できる仕組みへ段階的に高度化を図る。 * 「最近10年史」の編纂・発行。
②コンプライアンス推進部会 【事務局】 ■ 独禁法遵守WG 【団体指定・選択】	□ 税制改正要望の取りまとめ等を行う。 * 会員10団体からの改正要望事項の取りまとめを行い、9月を目途に2027年度税制改正要望書を経済産業省に提出する。 * 関係省庁と印刷企業との仲介役を務め、関連アンケート調査の発信・取りまとめ、情報の発信を行う。 □ 独禁法の周知徹底等を行う。 * 印刷業界で二度と談合問題を起こさないよう、専門家によるセミナーやフォローアップ調査等の再発防止周知活動を継続して行う。
③知的財産部会 【団体指定・選択】	□ 知的財産権に関する情報収集・調査研究、政府・行政省庁への対応、及び10団体会員企業への知財に対する啓蒙活動を行う。 * 文化庁・特許庁・知財戦力本部・経産省等の知財に関わる最新動向の共有と新たな法政令の調査研究。 * 政府・行政省庁の知財関連動向への対応、パブコメ等を通じた意見表明や提案活動の推進。 * 知財トラブル未然防止を啓発する既存のコンテンツの利活用。 * 生成AI活用の実務課題の検討。
④情報セキュリティ部会 【団体指定・選択】	□ 2025年度に引き続き、以下の4点を柱として、印刷業界全体の情報セキュリティリテラシー向上につなげる活動を行う。 ①一般向けコンテンツ作成・更新 ②経営者向けコンテンツ作成・更新 ③経営者・情報セキュリティ担当者向けセミナー開催 ④一般向け基礎セミナー開催 □ 2026年度開始予定の経済産業省「サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策評価制度」に対する、印刷業界の指針案を作成する。
⑤労働安全衛生部会 【10団体必須】	□ 「労働衛生／化学物質管理」を優先テーマとして取り組み、印刷産業の職場環境の改善と健康障害の撲滅に取り組む。 * 印刷産業に従事する人たちの健康障害撲滅に向け、各事業所の化学物質取扱いに関する問題点への対応を行い、職場環境改善を支援する。 * 中央労働災害防止協会等の外部の専門機関の指導・アドバイスも取り入れ、事業者が理解し、実践しやすい健康障害撲滅対策に取組む。 * 2024年度から新たな化学物質管理規制が本格施行され、従来の法令準拠型から自律的な管理へと移行されたため、本年度も労安法改正に伴う対応を図る（講習会、セミナー開催等）。

6 顕彰委員会

1. 委員会の業務分掌

《「日印産連表彰選考委員会」「GP環境大賞等選考委員会」を招集し、選考を委嘱する委員会》

2. 委員会事業の概要

顕彰委員会は、「顕彰の客観性と信頼性の継続的な維持・向上」をコンセプトに、印刷産業の活性化につながる顕彰制度を目指し、「日印産連表彰」「GP環境大賞等選考委員会」についての検討を行う。

3. 部会／WG

①日印産連表彰選考委員会 【10団体必須】	□ 審議・選考および外部審査への答申案の策定
②GP環境大賞等選考委員会	□ 審議・選考 ※委員は外部有識者も含め構成

Ⅱ 審査・認定事業

① プライバシーマーク審査事業

1. 2026年度の目標

	申請受理数			現地審査数			移 管		更新 辞退	審査収入 (千円)	in： 他審査機関から移管 out：他審査機関へ移管
	新規	更新	合計	新規	更新	合計	in	out			
2021年度 実績	11	241	252	9	209	218	+7	▲2	▲17	90,393	
2022年度 実績	5	193	198	7	227	234	+1	▲3	▲14	94,363	
2023年度 実績	4	182	186	3	191	194	+2	▲2	▲13	82,194	
2024年度 実績	9	204	213	10	218	228	+1	▲3	▲24	91,189	
2025年度 見込	1	176	177	1	180	181	+1	▲2	▲13	75,460	
2026年度 計画	2	213	215	3	211	214	0	0	▲7	86,816	
対前年 増減	+1	+37	+38	+2	+31	+33	▲1	+2	+6	▲11,356	

2. 重点課題と施策

(1) 認定事業者数の維持・拡大

- ・新規獲得事業者及び新任担当者のサポート
審査の流れ解説セミナー、構築・運用指針解説セミナー等を実施し、「わからない」「負荷が高い」という理由による新規取得断念及び更新辞退を低減する。
- ・啓発活動の推進
内部監査員セミナーや構築・運用指針解説セミナーなどを通じて、各事業者の個人情報保護マネジメントシステム（PMS）の実効性向上を支援し、Pマーク制度の有効性を理解していただくことにより、更新辞退を低減する。
2026年度は、オンラインでの内部監査員セミナーも開催し、上記施策を拡大する。

(2) 審査体制の強化

- ・主任審査員の育成
審査員の力量を評価し、主任審査員候補者を選定、育成計画を作成し、実行する。
- ・審査員の育成
職員の審査員への格上げを計画し、実行する。
事務局業務の合理化とデジタル化を促進し、職員審査員がコンスタントに審査業務を実施できる体制を構築する。
審査員補OJTを受け入れ、審査員への格上げを図る。
- ・審査員のレベルアップ
事業者役に役立つ審査となるように、センター内での研修会・勉強会の内容を充実させ、審査員のレベルアップと審査品質向上を図る。

② グリーンプリンティング認定事業（GP認定事業）

1. 事業概要

グリーンプリンティング（GP）認定事業のうち、工場認定は2025年度に444工場になり、製品認定についてはマーク表示部数も累積14億部を突破した。GP認定申請希望者への概要説明会、更新申請説明会、GP工場交流会の実施の他、GP環境大賞等表彰制度実施、小山薫堂氏のトークショー実施、GPマーク採用企業・団体のホームページへの掲載など、GP推進部会とともに周知活動を行った。

2026年度は、日印産連環境ビジョン2050並びに「SDGs目標12：持続可能な生産消費形態を確保する（つくる責任 つかう責任）」の目標の実現に向け、早期のGP工場500工場達成を目指し、引き続きオンライン説明会を積極的に実施するとともに、クライアントへの認知拡大、業界内外への発信を積極的に行っていく。また、GP環境大賞等の表彰制度、小山薫堂氏のトークショーの継続実施によりクライアントに訴求する事業へと拡大していく。

また、申請企業の業務負荷を軽減する施策として、現在の紙ベースの申請方法からデジタル活用した申請審査システム

を構築し、申請・審査双方の業務改善を推進する。

その他、会員企業のリソース不足を補う施策として、印刷会社OB専門人財を活用した伴走型支援である「環境アドバイザー派遣制度」のトライアル運用を開始する。

「グリーン購入法」役務（印刷）の基準値1にGP認定が採用された成果を確実に結実するべく、業界内外への周知活動を継続実施する。

2. 事業活動

（1）認定実績と目標

2025年度新規認定数実績：16

2025年度認定工場数実績：444（2026.3月現在）

2026年度認定工場数目標：465（2027.3時点）

（2）活動内容

①重点的活動項目

- i) 認定工場早期500工場達成に向け、オンライン新規取得説明会の実施、環境推進工場登録制度との連携など、GP工場認定取得のための周知活動の展開。
- ii) GP環境大賞等の表彰制度を継続することにより、クライアント及び消費者への訴求。

②その他活動

- i) 既存GP工場への各種対策
 - ・ GP更新認定工場に対するオンライン更新説明会の実施。
 - ・ GP工場交流会、重要環境法令対応セミナー等の実施。
- ii) 新規GP認定数増大への対策
 - ・ 新規取得希望工場に対するオンライン説明会等の積極的活用。
 - ・ 印刷関連団体及び印刷企業からのGP認定制度説明要請への対応。
 - ・ GP取得のメリット、GPマーク採用事例、自治体への普及状況等の積極的PR。
 - ・ 環境推進工場認定制度との連携強化（GPへのステップアップ支援）。
- iii) GP認定制度の社会に対する広報活動
 - ・ 小山薫堂グリーンプリンティングPR大使を活用した新規PR活動の展開。
 - ・ コンテンツ（アニメーション、キャラクター）を活用した消費者への認知拡大。
- iv) デジタルを活用した申請審査業務の改善
 - ・ 資機材申請登録システム改修（2025年度実績）を皮切りに、工場認定システム構築によるWEB申請審査を実現し、GP申請企業の業務負荷を軽減する。
- v) 「印刷産業環境ビジョン2050」実現支援のための環境アドバイザー派遣制度の創設。
 - ・ 10団体や会員企業へのヒアリングにより詳細ニーズの把握。
 - ・ 支援メニュー設定（環境法令チェック、カーボンニュートラル、GP取得支援）。
 - ・ 支援フロー確定（カウンセリング・現場視察・支援計画立案・派遣・効果検証）。
 - ・ アドバイザー人財の確保（印刷会社OB・現職の環境部門人財確保）。
 - ・ トライアル運用の開始。

新たなビジネス事例

印刷イノベーション

BtoCコンテンツ事業事例

高品質重視の同人誌・ グッズ製作で新市場を開拓 株式会社 緑陽社（東京都）

「最高の品質と最良の誠実で社会に貢献する」を経営理念に、印刷・グッズ事業を展開している株式会社緑陽社。同社は、同人誌・グッズ事業に特化した経営戦略で業界屈指の企業にまで成長した。その高いクオリティに、企業やクリエイターの顧客から絶大な支持を得て売上を伸ばしてきた。現在、『新たなBtoC創業』を掲げてコンテンツ制作に乗り出している。同社を牽引する武川優社長に、経営方針、同人誌の印刷・製本への取り組み方、今後の経営方針などについて話を伺った。



武川社長

■信頼に応えて高品質・高価格路線を確立

株式会社緑陽社は、企画・提案からDTP、印刷・製本、納品まで自社一貫製造体制を敷いている。現在、従業員はパート社員含めて63名を擁して、年間5,000件以上の受注があり、同人誌の印刷・製本では業界屈指の企業である。



本社社屋

同社を率いる武川社長は、「最高の品質と最良の誠実で社会に貢献する」ことを経営理念に、個人のクリエイター、企業などから受注し、売上を伸ばしてきた。1981年、同人誌という大衆創作文化が興隆しつつある中で、キャラクター消費が今後伸びるとみて、同人誌によるBtoC事業に活路を見出した。その武川社長の先見の明により、同人誌の売上は飛躍的に伸びていった。

主な取引先は、同人誌の個人作家、アニメ関連キャラクター商品や書籍の制作会社・販売会社、また、ライブ事業・グッズ・デジタルコンテンツの企画・販売会社など、近年業績を伸ばしているエンターテインメント企業である。

武川社長は、売上高の比率について「昨年度は印刷が39%で、そのうち同人誌が79%を占め、その他が21%（法人系）でした。残りの59%がグッズで、こちらは法人（営業型）が75%、その他（EC）が25%です」と話す。

近年は、売上の3分の2が法人であるが、同社の基盤はあくまでもBtoCだという。「コンテンツの消費者とダイレクトに結びつきたい。それを考えると、BtoCを基軸にしないわけにはいきません。商品で自分の意思で創っていくことを恐れてはいけなく考えています。そこで『BtoC創業』を新たに掲げました」と、今後は電子展開も視野に入れている。

「同人誌は通常少部数で、平均で500部くらいです。カラーオンデマンド印刷機は保有していますが、まだまだUV硬化システムを搭載したオフセット6色印刷機でカラーを印刷しています。クリエイターたちは色にはとても拘りますから、当社ではAMカラーでは240線、FMカラーでは10μmの2つの高精細印刷を提供してニーズに応えています。FMカラーはドットが小さくランダムですから、モアレを防ぐことができます」と、高品質の印刷に徹している。

最前線!

第5回

この連載では、既存の印刷製品の優良事例や非印刷領域における先端事例を紹介します。

■Web上できめ細かいサービスを提供

緑陽社が大きく飛躍したのは、全てのカラーを5色（4色+蛍光ピンク）で印刷した時だ。CMYKカラーに蛍光ピンクのインキを掛け合わせる技術で、キャラクターの肌とイラスト全体を明るくした。同人誌参入直後に5色印刷を開始し、ここで高品質・高価格路線を確立し、クリエイターの支持を集めてきた。

また、印刷用紙にも拘りを持ち、マンガのベタと網点を綺麗に再現するコミック用紙を業界に先駆けて開発し、色とりどりの6色を提供している。

特筆すべきは、ホームページ上に『自動見積＆予約システム』を構築していることだ。納品日や仕様を入力すると、締め切りや束幅や価格を確認することができる。このように料金の標準化は大手通販印刷会社並みに万全な体制を敷いているのが特徴だ。また、『色刷りインキ×特殊紙シミュレーター』を設けて、色の見え方を画面上で視覚化し、クリエイ

ターが指定したい色と、利用できる用紙と一緒に確認することを可能にしている。このようなきめ細かいサービスがクリエイターから支持を得ている要因でもある。

さらに、グッズの拡大を見据え、外注依存だったグッズの内製化を2015年にスタートした。そこから3年間で3倍の売上を達成している。

グッズはEC販売にも力を入れ、ラインナップは700種、アクリル・布素材からWebサイトにない特注品まで、1個のサンプル品から大口商品まで請け負っている。

同社はこれまで延べ16万人以上のクリエイターの作品を手掛けてきた。「皆さん自分の思い通りの作品を創りたいという考えを持っていますから、料金は二の次という方がほとんどです」と、語る武川社長。

同社は現在、①「電子展開も含めてキャラクターコンテンツの製作に注力する」。②「BtoB受託製造の信用を基盤とし、新たなBtoC事業で売上を伸ばす」。③「商品製造を恐れず新規商品開拓に果敢に挑戦」。④「海外展開を図っていく」の4つのテーマに取り組んでいる。この他、マンガ原画のアーカイブ事業、マンガ・アニメ・キャラクターなどのライセンスビジネスも強化していく考えだ。

「お客様により良い表現を提供するのが私たちの使命だと考えています」という武川社長。価値創造企業として今後さらなる躍進が期待される。



特殊加工した
同人誌も作っている

株式会社 緑陽社

所在地：東京都府中市分梅町3-58-1

代表者：代表取締役 武川 優

創業：1980年12月

URL：<https://www.ryokuyou.co.jp>

2025年度 個人情報に関する事故報告（1）

当審査センターがプライバシーマークの付与適格決定を行った事業者から、2025年度に報告があった事故概要を共有します。社内教育にご活用ください。

《2025年度の事故概要》

当審査センターが報告を受けた個人情報の取扱いにおける事故の現象別分類を、表1にまとめました。報告件数は52件で、前年より13件増加しました。2021年度比で4.3倍となります。

ただし、ウイルス感染（不正アクセスを含む）の16件の内、外部サービスの利用（メールセキュリティサービス、プレスリリース配信サービスへの不正アクセス等）によるものが13件あります。またその他の1件は事故報告として受領しましたが、個人情報の事故ではなかったため、それらを除くと38件となり、2023年度以降ほぼ横ばいです。

5年間の合計件数では、封入ミス40件、メール送信35件、ウイルス感染33件の3分類が圧倒的に多いです。ウイルス感染は、外部サービスが不正アクセスを受けたものを含んでいますので、やはり封入ミス、メール誤送信といった、人によるミスを防ぐ仕組み、手順、教育が重要と思われます。

2025年度は、ウイルス感染（不正アクセス含む）（16件）、封入ミス（10件）、メール誤送信（9件）、その他（7件）、紛失（3件）の順で報告が多かったです。今号では件数の多い上位2分類の報告概要を表2に記載しています。これ以外は次号で説明します。

表1 事故の現象別分類（年度別）

分類 報告 件数	漏えい									盗難・紛失・消失			その他	合計
	誤送付						ウイルス 感染	Web上	その他	盗難	紛失	消失		
	宛名 間違い	配達 ミス	封入 ミス	圧着 ミス	FAX 送信	メール 送信								
2021年度	3		2			2		1	1		3			12
2022年度	1		7			7	4	5	2		1	2		29
2023年度	1	1	15	2		8	5	4	1		5	2		44
2024年度	3	2	6			9	8	5	1		5			39
2025年度	2	2	10			9	16	2	7		3		1	52
計	10	5	40	2	0	35	33	17	12	0	17	4	1	176

※ウイルス感染
には不正アク
セス含む

表2 日印産連プライバシーマーク審査センターに報告のあったウイルス感染、封入ミス事故（2025年度）

漏えい／ウイルス感染（不正アクセス含む）	16件
①SIM付PCのRDPポート脆弱性により、ドメインサーバー（Active Directoryサーバー）へランダムなアカウント情報でログインを試行する不正なアクセスが頻回行われた。個人情報の漏えいは無かった。	
②顧客より受託し、会員サイトを2024年に立ち上げたが、しばらく本格運用とならず、一部の会員様や自社社員のデータ入力だけを行って事実上休止状態であった。 2026年になって本格稼働を試みるためにアクセス履歴を確認をしたところ、不正行為により（暗号化、流出等）、氏名、自宅住所、電話番号、メールアドレスの個人情報が漏えいしたことを確認した。	
③業務利用中のクラウド型ビジネスチャットツールにおいて、外注先を装ったチャットに記載されたURLをクリックし、チャットツールへの再ログイン操作を行ったところ、当該アカウントから第三者によって不審メッセージが送信されていることが、委託先からの連絡により発覚した。当該アカウント又は関連チャット上には、氏名、住所、口座情報、支払額、税額等の個人情報が含まれており、最大128名分、うちマイナンバー4件について漏えいのおそれがある。	
④利用しているプレスリリース配信サービスが不正アクセスを受け、利用者情報等の個人情報が漏えいした可能性がある。【8件】	
⑤利用しているメールセキュリティサービスが不正アクセスを受け、利用者情報等の個人情報が漏えいした可能性がある。【4件】	
⑥利用している通販サイトが不正アクセスを受け、個人情報が漏えいした可能性がある。	

漏えい／誤送付／封入ミス	10件
①新規入会企業への資料発送業務において、A社の会員情報が含まれた書類を誤封入し、B社の担当者へ郵送してしまったため、A社の会員の社名、氏名、部署名の個人情報が漏えいした。	
②商品券を封入封緘し、各世帯に商品券の発送業務を行ったが、1世帯分誤封入があり、別世帯の方へ発送を行ってしまったため、氏名、住所の個人情報が漏えいした。	
③A案件の健診受診票とB案件の健診受診票を重ねてコレクター丁合機にセットしたことにより、QR制御コードの検証ミスにより、A案件の健診受診票の1通とB案件の健診受診票の1通が互い違いになって封入されてしまい、受診票記載の氏名、生年月日、性別の個人情報が漏えいした。	
④封入封緘（納入通知書＋納付書）業務において、封入封緘機のセンサーの誤検知とリカバリー手順の不備により、納付書が1枚ずつずれて封入され、納付書に記載された氏名の個人情報が漏えいした。	
⑤名刺印刷業務（1名分を200枚（100枚入り）を2ケース）において、他の名刺案件の成果物を取り換え、Aのお客様にBのお客様の名刺が、Bのお客様にAのお客様の名刺が100枚ずつ混入し（2ケースのうち1ケースが違う方のもの）、氏名、電話番号、メールアドレス等の個人情報が漏えいした。	
⑥DM発送代行業務において、封入する前に確認するOPP封筒の数量確認と封入後の発送通数の確認が不十分だったため、OPP封筒の中に1セット3枚（宛名印字した台紙1枚と同封物2枚）を封入し発送したが、1件の別人の宛先が入った用紙が混入し、氏名、住所の個人情報が漏えいした。	
⑦DM発送代行業務において、封入する前に確認するOPP封筒の数量確認と封入後の発送通数の確認が不十分だったため、OPP封筒の中に6点封入し発送したが、1件の別人の宛先が入った用紙が混入し、氏名、住所の個人情報が漏えいした。	
⑧受託した本人確認依頼文書を発送する業務において、混入を招き、組合Aに納品されるべき法人顧客返信アンケート1通を誤って組合Bに納品し、氏名等の個人情報が漏えいした。	
⑨⑧の委託元の報告	
⑩受託した株主優待の案内書送付業務において、許可していない再々委託先が、株主の個人情報が入った冊子を誤って別の株主宛に誤封入し、送付したため、氏名、住所、保有株数の個人情報が漏えいした。	

プライバシーマーク付与事業者のご紹介

2026年3月～2026年5月に日印産連プライバシーマーク審査センター審査委員会において、プライバシーマーク付与適格決定を受けた事業者は、以下のとおりです。

＜第220回 審査委員会 2026年3月23日（月）開催＞

【更新事業者】三美印刷株式会社、荏原印刷株式会社、TOPPANクロレ株式会社、株式会社フレーベル館、株式会社篠原印刷所、株式会社トスコ、株式会社デジブリ、TOPPANグラフィックコミュニケーションズ株式会社、速水印刷株式会社、相互ビジネスフォーム株式会社、株式会社ロータリービジネス、株式会社日栄、トキワ印刷株式会社、ワールド印刷株式会社、株式会社モバイルブック・ジェービー、東海電子印刷株式会社

＜第221回 審査委員会 2026年4月27日（月）開催＞

【更新事業者】有限会社翼企画、共立印刷株式会社、株式会社太平社、株式会社ディグ、石井電算印刷株式会社、株式会社大川印刷、小松印刷グループ株式会社、株式会社久栄社、TOPPANコスモ株式会社、株式会社文化カラー印刷、株式会社祥文社、株式会社スバルグラフィック、株式会社協同プレス、日本特急印刷株式会社、松本印刷株式会社、ティエヌエル株式会社、音羽印刷株式会社、株式会社高速オフセット

＜第222回 審査委員会 2026年5月25日（月）開催＞

【更新事業者】株式会社TBネクストコミュニケーションズ、株式会社研文社、有限会社高浜印刷、株式会社マイプロテック、総合ビジネス株式会社、関東図書株式会社、共立印刷株式会社、亜細亜印刷株式会社、東京ビジネス・フォーム株式会社、株式会社マーヂネット、池田印刷株式会社、株式会社明祥、ネット印刷ITP株式会社、東京都チャレンジプラスTOPPAN株式会社、株式会社総合印刷新報社、千修岩井印刷株式会社



グリーンプリンティングニュース

昨年度、新たに18工場がGP工場になりました。誠におめでとうございます！

2025年度 新規GP認定工場（18工場）：第79回～第82回 グリーンプリンティング認定委員会（全4回）

印刷部門	認定番号	会社名	工場・事業所名	印刷部門	認定番号	会社名	工場・事業所名
オフセット	A10048	ダイオーミウラ株式会社	本社	オフセット	B10311	トキワ印刷株式会社	本社工場
オフセット	A10049	ダイオーミウラ株式会社	大阪工場	オフセット	D10020	大進印刷株式会社	
オフセット	B10306	秋田協同印刷株式会社		グラビア	H30070	淀川加工印刷株式会社	本社工場
オフセット	B10307	株式会社丸井工文社	二本松工場	オフセット	B10312	鈴木美術印刷株式会社	本社工場
オフセット	D10019	情報印刷株式会社	本社工場	オフセット	K10030	株式会社アライ印刷	
シール	A20002	ダイオーミウラ株式会社	本社	シール	G20030	東邦マーク株式会社	
オフセット	B10308	株式会社スバルグラフィック	本社	オフセット	D10021	株式会社大鷹	板橋工場
オフセット	B10309	株式会社スバルグラフィック	戸田工場	オフセット	K10031	社会福祉法人東京コロニー	東京都大田福祉工場
オフセット	B10310	株式会社スバルグラフィック	舟渡工場	オフセット	K10032	株式会社ファルコンプリント	江東営業所

※認定番号のアルファベットは所属団体を表しています。

グリーン購入法に「グリーンプリンティング認定」が明記された効果

—環境配慮型印刷の“標準化”へ大きな一歩—

政府が定める環境物品等の調達を推進する「グリーン購入法」において、2025年度グリーンプリンティング（GP）認定制度が正式に明記された。

これにより、環境配慮型印刷物の基準としてGP認定が国の調達方針に位置づけられ、印刷業界にとって大きな転換点となった。

GP認定は、資材選択・化学物質管理・省エネ・廃棄物削減など、印刷工程全体を対象とした総合的な環境認証制度である。今回の明記により、自治体や公共機関の印刷物調達において、GP認定工場・GP認定印刷物の活用がより一層促進されることが期待される。

業界関係者からは、「環境配慮印刷の基準が国の制度として明確化されたことで、企業の調達基準にも波及しやすくなる」「印刷会社の環境投資や認定取得の後押しになる」といった声も寄せられている。

また、ESG・SDGsへの取り組みが求められる中、発注側企業にとっても、“環境配慮を客観的に示せる印刷物”としてGP認定の価値が高まることは間違いない。

今回の明記は、印刷業界全体が環境配慮型の生産体制へ移行する流れをさらに加速させるものだ。

今後は、公共調達での活用拡大に加え、民間企業のブランド戦略やESG戦略においても、GP認定の存在感が一段と強まるだろう。

既にクライアント企業、印刷会社からの問い合わせが急増している。

グリーンプリンティング公式キャラクター「ジッピー」誕生！

—1分アニメーションとともに、環境配慮印刷の魅力をより分かりやすく発信—

印刷業界における環境配慮の重要性が高まる中、グリーンプリンティング（GP）認定制度は、環境

負荷低減を担保する仕組みとして全国のクライアント、印刷会社から注目を集めている。こうした流れをさらに後押しするため、このたびGP公式キャラクター「ジッピー」が誕生した。

ジッピーは「環境にやさしい印刷を、もっと身近に、

もっと楽しく」をコンセプトに生まれたキャラクターで、親しみやすいデザインと分かりやすい語り口で、GPの理念を幅広い層に伝える役割を担う。

今回のキャラクター公開に合わせて、**GPの仕組みと価値を1分で理解できるアニメーション動画**も制作



●GP紹介1分動画



グリーンプリンティングのことをジッピーが短く・やさしく1分で紹介。営業現場で“説明の手間が減る”動画となっております。

🔍 グリーンプリンティング

された。動画では、ジッピーがナビゲーターとして登場する。

特に、自治体や企業の環境担当者にとっては、内部説明や稟議の際に「短時間で理解してもらえる素材」が求められることが多い。今回の1分アニメーションは、まさにそのニーズに応えるものであり、説明会・研修・展示会・営業提案など、さまざまな場面で活用できる“汎用性の高いPRツール”として使用していく。

また、印刷会社にとっても、ジッピーとアニメーションは「**自社の環境配慮の取り組みを顧客に伝えるための共通言語**」となる。動画を提案書や見積書に添付したり、名刺、ホームページ・会社案内への掲載、営業訪問時にタブレット・スマホで再生したりすることで、従来よりもスムーズにGPの価値を説明できるようになる。是非、有効に活用して頂きたい。

今後は、ジッピーを活用した追加コンテンツや、SNS向けの短尺動画、展示会用の素材など、さらなる展開も検討していく。

環境配慮印刷の普及を目指すGP制度にとって、ジッピーと1分アニメーションは、業界内外の理解促進を大きく後押しする存在となる。

2026 GP環境大賞等 表彰式 & 「印刷と私」トークショー 開催決定！

今年もGP環境大賞等表彰式および「印刷と私」トークショーの開催が決定した。

本表彰式は、印刷業界が地球環境への負荷低減に取り組むために創設したGP認定制度に対して、深く理解し積極的に活用していただいている企業や団体に敬意と感謝の意を込めて贈るもので、持続可能な社会の実現に向けた業界全体の発展を促すことを目的としている。

また今年も、印刷の価値をより多くの方に伝えるため、人気コンテンツ「印刷と私」トークショーも併催する。

■開催概要

- 名称：2026 GP環境大賞等表彰式 & 「印刷と私」トークショー
- 日時：2026年10月14日(水) 15:30～18:30
- 会場：出版クラブホール（東京・神田神保町）
- 主催：一般社団法人 日本印刷産業連合会

- 参加対象：クライアント企業、印刷関連企業、メディア（予定）

- トークショー：放送作家・脚本家 小山薫堂さんによるトークショーを開催する。素敵なゲストをお迎えし、印刷にまつわる興味深いテーマでお話し頂く。

■プログラム（案）

1. GP環境大賞等 表彰式
 - GP環境大賞
 - GPマーク普及大賞
 - GP資機材環境大賞
2. 小山薫堂さんによる「印刷と私」トークショー
 - ゲスト：選定中（近日公開）
3. フォトセッション
4. 懇親会 受賞クライアント企業、印刷会社、資機材メーカーが参加します。新たなビジネスにつながったという声も寄せられている。

第65回 ジャパン パッケージング コンペティション (JPC) 授賞式

2026年5月29日(金)午後1時よりホテルグランドヒル市ヶ谷にて、ジャパンパッケージングコンペティション (JPC) 授賞式が開催されました。ご来賓や受賞者、印刷関係者など約150人が出席しました。

式典は、緒方宏俊・日印産連専務理事の主催者代表挨拶、経産省文化創造産業課 青崎智行調整官の来賓代表挨拶に始まり、各賞の賞状授与が行われました。その後、加藤審査委員長が審査講評を行い、経済産業大臣賞を受賞した味の素株式会社 コンシューマーフーズ 専務理事 緒方宏俊の挨拶、事業部 シーズニンググループ 嶋和子様、大日本除虫菊株式会社 コミュニケーション本部 ブランド戦略部 次長 中野千恵様の代表謝辞で授賞式が閉会、会場を移動し加藤審査委員長の乾杯のご発声で懇親会が始まりました。



経済産業大臣賞の大日本除虫菊(株) 中野様(中央)、味の素(株) 嶋様(右から2人目)

懇親会では、受賞関係者がステージで記念写真を撮れる場を設け、ホームページや社内報、SNSで受賞を発信できるようにしました。

なお、入賞作品の展示会を、以下の通り開催いたしますので、ぜひ足をお運びください。

▽大阪

ペーパーボイス大阪 = 6月29日(月)～7月8日(水)
大阪府大阪市中央区南船場2-3-23

▽東京

ペーパーボイス東京 = 7月21日(火)～7月30日(木)
東京都中央区新川1-22-11

▽東京

印刷博物館 = 10月17日(土)～2027年1月17日(日)
東京都文京区水道1丁目3番3号 TOPPAN小石川本社ビル

展示内容：経済産業大臣賞両作品以下、「経済産業省製造産業局長賞」、「経済産業省大臣官房商務・サービス審議官賞」、各後援団体賞、主催者賞、部門賞の計41作品。

「第59回 造本装幀コンクール」審査会

2026年6月3日に、第59回造本装幀コンクール審査会を東京都千代田区神保町の日本出版クラブビル会議室にて開催しました。

当日は、295点の応募作品の中から、22点の受賞作品を決定しました。

なお、入賞作品はドイツ・ライプツィヒで2027年2月に行われる「世界で最も美しい本コンクール」へ日本を代表して出品されます。その後2027年10月には、フランクフルト・ブックフェアで世界各国からの優れたブックデザイン作品とともに公開されます。最終的には、全出品作品(一部入手不可能な作品を除く)が国立国会図書館の「原装保存コレクション」として収蔵されます。入賞作の詳細は、日印産連のHPでご覧いただけます。



左から、東京都知事賞『詩集 雲ノ平』(今宿末悠 刊)
文部科学大臣賞『吉田亮人「The Dialogue of Two」』(Three Books 刊)
経済産業大臣賞『Dropped Water, Dropped Fruit』(COO BOOKS 刊)

印刷工業会

2026年度 定期総会並びに理事会開催 新会長に、大橋輝臣氏（共同印刷株式会社）就任

2026年5月20日（水）、日本印刷会館2階会議室において開催された定期総会・理事会にて、2026年度役員が下記のとおり決定し、新たな体制がスタートいたしました。



新会長の大橋 輝臣氏

●2026年度 印刷工業会役員

役 職 名	氏 名	会 社 名	
会 長	大橋 輝臣	共同印刷(株)	(昇任)
副 会 長	堆 誠一郎	宝印刷(株)	
	佐藤 裕芳	(株)千代田グラビヤ	
	岩岡 正哲	岩岡印刷工業(株)	
専務理事	高浪 貴裕	印刷工業会	(新任)
常任理事	北島 義斉	大日本印刷(株)	
	大 矢 諭	TOPPANホールディングス(株)	(新任)
	岡沢 宏和	TOPPANクロレ(株)	
	鈴木 順也	NISSHA(株)	
	岩尾 純一	(株)一九堂印刷所	
	嶋山 芳夫	光村印刷(株)	
	有松 敏樹	アート印刷(株)	
	下谷 友康	(株)千修	
	北 原 整	(株)電通プロモーション	(新任)
理 事	木全 幸治	竹田印刷(株)	
	田畠 久義	(株)久栄社	
	山添 英樹	ライト印刷(株)	
	福田 浩志	(株)ウエマツ	
	大橋 幸成	ダイオーミウラ(株)	
	須 田 守	(株)須田製版	
	杉山真一郎	富士特殊紙業(株)	
	元吉 一明	瀬味証券印刷(株)	
	望月 邦彦	望月印刷(株)	
	妻鹿 吉晃	当矢印刷(株)	
	高 橋 太	トーイン(株)	
	橋本 唱市	文唱堂印刷(株)	
	奥 継 雄	(株)文星閣	
	佃 吉 郎	三松堂(株)	(新任)
	町田 達泰	町田印刷(株)	(新任)
	常 盤 誠	(株)広済堂ネクスト	(新任)
監 事	武井 宣人	(株)リーブルテック	
顧 問	藤森 康彰	共同印刷(株)	
相 談 役	浅 野 健	(株)金羊社	

全日本印刷工業組合連合会

適正な印刷取引の実現に向けて 契約書ひな型ガイドブックを作成、発行

全日本印刷工業組合連合会（以下、全印工連）は、印刷業界における取引環境の課題が近年ますます大きくなっている実情を踏まえ、取引の適正化と印刷業界の持続的発展を目的として、官公需取引並びに民間取引の「基本取引契約書ひな型」を3種類作成しました。それぞれの冊子の名称と頒布価格、ポイントは下記の通りです。

○官公庁向け：官公需のための印刷発注契約ガイドブック約款ひな型と発注者のための実務解説2,000円（税込）官公需契約の発注者である国や地方公共団体の職員が理解しやすいように、契約約款ひな型と解説を掲載しました。

○民間企業向け：印刷物における取引適正化ガイドブック契約書ひな型と発注者のための手引き2,000円（税込）民間取引における発注者向けに、これまでの慣習等に頼るのではなく、発注者・受注者が対等な立場で適正な契約を結ぶための基本契約書ひな型と解説を掲載しました。

○組合員向け：印刷業のための契約実務ガイド官公需・民間契約ひな型と受注者の視点（組合員価格：3,000円（税込）、組合員外価格：5,000円（税込））

印刷会社向けには、官公需用と民間用双方のガイドブックの内容をまとめ、組合員・印刷会社が実務で活用しやすいように解説を加えました。

本ひな型は、発注者と受注者の双方が対等な立場で健全な取引を行うための共通基盤となるよう作成したものです。ひな型の作成にあたっては、全印工連内にPT（プロジェクトチーム）を設置し、専門の弁護士を委員として招聘し、その助言を得ながら、法的妥当性と実務の有用性の両面から検討を重ねました。さらに、経済産業省の監修を得て、3分冊にまとめました。

全印工連では、本ひな型の利用により「新しい契約文化の創出」につなげたいと考えています。具体的には、1点目として、官公需取引では、使い回しの契約約款・仕様書の使用をやめ、民間取引では口頭合意をやめ、法的妥当性を持った「書面契約」を取引の土台とすることで、印刷会社の成果物を保護します。2点目は「対等なパートナーシップの構築」により、発注側と受注側が対等な立場で利益とリスクを分かち合う環境作りを目指します。3点目は「次代へ受け継ぐ情報インフラの社会的使命」として、社会的責任を果たす正しいガバナンスと、人権・創意を尊重する透明な取引体制を整え、信頼される印刷産業の未来を切り拓くことに寄与したいと考えています。

日本フォーム印刷工業連合会

「2026年度 通常総会・第2回 理事会」を開催

5月21日(木)16時より、「2026年度 通常総会・第2回 理事会」および「懇親会」をホテル椿山荘東京にて開催し、通常総会では「2025年度 事業報告・決算報告」「2026年度 事業計画・収支予算」ならびに「任期満了に伴う役員改選」が可決承認され、続く「第2回 理事会」では、役員が以下の通り承認された。

会 長	小 林 友 也	小林クリエイト(株)
副 会 長	松 田 守 生	TOPPAN(株)
	松 本 康 宏	光ビジネスフォーム(株)
	和田 秀一郎	(株)プロゴワス
	小田島 秀明	(株)恵和ビジネス
	中 川 良 樹	(株)ジェイビーエフサプライ
専務理事	大 平 直 木	専従

第2回理事会で選出された小林新会長は、就任の挨拶で以下の通り抱負を述べた。

この度会長を拝命しました小林です。あらためましてどうぞよろしくお願い申し上げます。申し上げるまでもなく印刷業界はどこも厳しい中で、得意先のため、従業員のために生き残りをかけています。この団体で何がお手伝いできるのかは、これからも考えていく必要があると思っています。国に伝えていくべきこと、サイバーセキュリティの話にしても、しっかりと伝えていくべきだと思っていますので、ぜひ皆さんの協力を得て頑張っていきたいと思えます。今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。



挨拶する小林会長

通常総会



またその後の懇親会においては全国各工業会の会長より近況報告もあり、活発な情報共有がおこなわれ、終始和やかな雰囲気につつまれ閉会した。

日本グラフィックサービス工業会

ジャグラ文化典 大阪大会を開催

ジャグラは6月20日(土)、大阪市のリーガロイヤルホテル大阪で、第68回 ジャグラ文化典 大阪大会を開催しました。「未来を創ろう 英知の台所 ～なにわの地にて」をテーマに、当日は第61回 定時総会、記念式典、特別講演会、大懇親会を企画しました。

第61回 定時総会では、任期満了に伴う役員改選で、原田大輔氏(東京・城南支部、(株)グッドクロス)が第23代会長に就任しました。総会に続いて行われた第62年度 第2回理事会で副会長、専務理事、理事が互選され、新たな執行部がスタートを切りました。

記念式典は長年、ジャグラをはじめ印刷業界の発展に寄与した会員ならびに従業員らを表彰したほか、ジャグラ作品展の受賞者に賞金と賞状が贈られました。

特別講演会は今総会にて退任した岡本泰直前会長が、「2期4年とこれから」をテーマに。自らが会長職を引き受けた理由から手掛けてきた事業を振り返るとともに、ジャグラコンパクトDX事業を支えてきた副会長、委員長へのコメント、諸先輩への感謝を述べました。

大懇親会は403名の来場者で盛り上がり、余興で大阪らしい寸劇からの花束贈呈やお笑い芸人のミルクボーイによる漫才が披露されました。



新役員

【会長】原田大輔(東京・城南 (株)グッドクロス) 【副会長】中村盟(東京・新宿 NS印刷製本(株))、戸来一裕(岩手 (株)興版社)、樋貝浩久(山梨 (有)東和プリント社)、神山明彦(愛知 (株)カミヤマ)、岡達也(大阪 あさひ高速印刷(株))、山本康彦(山口 山五青写真工業(株)) 【専務理事】田中良平(員外) 【理事】藤田靖(北海道 (株)プリプレス・センター)、井上貴寛(福島 (有)三共印刷所)、高野秀樹(茨城 (株)高野高速印刷)、露木貴弘(神奈川 (株)スクラム)、小澤孝一郎(山梨 (株)オズプリンティング)、稲満信祐(東京・港 (株)いなみつ)、齋藤秀勝(東京・港 (株)文化ビジネスサービス)、笹井靖夫(東京・文京 共立速記印刷(株))、西谷毅(東京・文京 西谷印刷(株))、松谷勝広(東京・文京 (株)松谷メールサービス)、笹岡誠(東京・城西 (有)ドゥ・プラン)、武川優(東京・三多摩 (株)緑陽社)、出村明(石川 (株)栄光プリント)、岡本泰(愛知 (株)クイックス)、立木哲生(京都 (株)あおぞら印刷)、谷川聡(京都 (株)大光社)、佐藤元(大阪 (株)イデアル)、瀬尾淳(広島 (株)広瀬印刷)、楠藤治(徳島 デイメンションナントウ)、山中克彦(徳島 グランド印刷(株))、本村豪経(福岡 アイメディア(株)) 【監事】鈴木将人(東京・港 (株)東京技術協会)、森孝(愛媛 (株)松栄印刷所)、前沢寿博(マエサワ税理士法人)

全日本製本工業組合連合会

令和8年度 全製工連通常総会
(第129回 理事会併催)

全日本製本工業組合連合会は6月5日、銀座キャピタルホテル茜にて「第55回 通常総会（第129回 理事会併催）」を開催しました。定刻に磯邊事務局長が司会のもと開会を宣言し、出席会員数が法定数を満たして本通常総会が有効に成立したことを報告。田中真文代表理事（会長）が議長に選任され、速やかに提出議案の審議に入りました。



田中真文全製工連会長

今年度の基本方針では、中東情勢によるインフレ懸念やAI技術の発展にともなう自動化への対応、社会構造の変化による印刷物需要の減少などに対応するため、製本ビジョン2030「紙の未来プロジェクト」を力強く推進し、組合員企業のさらなる経営基盤強化と発展を目指す方針があらためて示されました。また、改正取適法に沿った取引適正化や価格転嫁の課題解決、個人情報保護体制（SAPPS）の普及や環境対策（GP認定制度）の周知と取得支援が盛り込まれました。さらに、本年7月に開催予定の「全日本製本青年会岡山大会」や、2027年9月に明治記念館で開催される「70周年記念 全国大会東京大会」への全力の支援と、多くの組合員の参加を呼びかけました。

議決事項では、令和7年度事業報告および決算関係、令和8年度事業計画および収支予算、任期満了にともなう役員選挙、日印産連表彰の件など全8議案が順次審議され、いずれも賛成多数をもって原案通り可決承認されました。

総会終了後に開催された「第130回 理事会」では役員選任が行われ、代表理事（会長）に田中真文氏（東京工組）が再選されました。副会長には佐立哲彦氏（東京工組）、田中尚寛氏（大阪工組）、宮地啓一氏（福岡工組）が、副会長兼専務理事には本間敏弘氏（東京工組）がそれぞれ選任されました。あわせて品種別専門委員会の担当副会長および専門委員長、中央職業能力開発協会参議や特定技能評価試験委員などの推薦、相談役の委嘱および退任役員への感謝状贈呈を可決しました。最後に、オンラインを含む会議に参加した各工組の理事から詳細な現況報告を頂き、会は滞りなく終了しました。

その後は同ホテル内の懇親会会場へと席を移し、出席者一同、和やかな雰囲気の中で親睦を深め、一連の行事は盛会裏に終了しました。

全日本シール印刷協同組合連合会

第67回通常総会を開催
2026年度 事業計画・予算案を承認した

全日本シール印刷協同組合連合会は、令和8年5月29日（金）上野精養軒において「2026年 第67回通常総会」を開催して、2025年度 事業報告書、2025年度 決算報告書、並びに2026年度 事業計画案、2026年度 収支予算案をそれぞれ原案どおり承認した。

通常総会にて承認された2026年度の主な事業は、①日本印刷産業連合会の「GP認定制度」の組合員への周知徹底と参加、②第36回 シールラベルコンテストの開催並びに第34回 世界ラベルコンテストへの参加、③第68回 年次大会・東京大会の実施（10月16日）、④技術優良工場認定制度の継続運用、⑤4委員会合同主催のセミナーの開催、⑥メーリングリストによる情報共有。

また、この後上野精養軒にて行われた懇親会では、経済産業省の中村課長補佐、全日本シール印刷協賛会の服部会長をはじめに各役員、全日本シール印刷協同組合連合会の理事ら総勢35名が参加しておこなわれ、冒頭に、「世界ラベルコンテスト2025 トロフィー授与式」が行われた。



世界ラベルコンテスト2025 トロフィー授与式

全国グラビア協同組合連合会

北海道にて総会を開催

全国グラビア協同組合連合会は、6月11日(木)、札幌グランドホテル「玉葉」にて第56回通常総会、理事会を開催しました。全国より7単組15名の理事と賛助会員を含め、合計52名の出席となりました。総会は、下田専務理事の司会進行で始まり、田口会長より業界の危機感を中心としたご挨拶の後、議長に選任された若狭北海道グラビア印刷協同組合理事長の進行で進められました。安永副理事長による事業報告、下田専務理事からの決算関係報告、監査報告、高桑副理事長による事業計画と下田専務理事からの予算報告等と進み、すべての議案について満場一致にて承認が得られ、総会は無事終了致しました。10分間の休憩を挟み、同じメンバーにて理事会を開催致しました。赤澤経産大臣への要望書提出の件、日印産連からの報告事項、各種セミナーの案内等の議題について、活発な意見交換を行いました。



理事会終了後、同じホテル「GINSEN」に場所を移し、総勢73名による盛大な懇親会を行いました。若狭理事長より、お土産として、田口会長のラベルデザイン作成による全グラ向け特製日本酒が披露され、和やかな雰囲気の中で、懇親会を終了しました。翌日は、ゴルフ組と観光組に分かれ、日頃顔を合わせることの少ないメンバーと、思い思いに親交を深めました。



日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会

2026年度 GCJ通常総会 開催

錦山会長『結集！GC Power For the Next Generation』を掲げ6年目に！「価値共創を推進し ビジネスの拡大を図り次世代へ繋ぐ」

日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会の2026年度通常総会が、5月25日午後3時から、神田神保町の「出版クラブホール・会議室」で全地区工組代表者参加のもと開催されました。冒頭錦山会長より、「会長職も6年目をむかえる。その間、組合加入の意義を明確に打ち出すべく、互いに協力しビジネス領域拡大の取り組みを図ってきた。今年度は、『結集！GC Power For the Next Generation』を掲げ、現在の取り組みを次世代に繋げていきたい」と抱負を述べました。



錦山会長

錦山会長が議長を務め議事を進行、1号議案の2025年度の事業報告、2号議案同年度の決算報告も承認されました。続いての2026年度の事業計画及び予算案も原案通り可決されました。事業は前年度と同様の6つの事業委員会の継続になりますが、年度をまたぐ事業として、構想から2年の『生産シェアプロジェクト』もエントリー各社の強みが一覧できるシートを整備し、ホームページ上に公開しました。情報のやり取りの円滑化を図るためにSNSによる『GCJコミュニティ』もテスト運用から活用段階に移りました。この2つの活用により、各社の強みをシェアして価値共創の推進を図ります。

また、発足2年目となるGC青年会の活動も活発に行われ、次世代に繋ぐ役割を果たしています。

総会終了後の第1回理事会で4年ぶりに開催される、GCJ東京大会の概要が松浦（GCJ副会長）東京大会実行委員長から次のように発表されました。

11月20日(金)東京ドームホテルにて開催します。

現在実行委員会の全体会は毎月開催、その他5つの役割毎のチームによる打ち合わせを行っています。

大会の構成は、講演会、パネルディスカッション、記念式典、懇親会からなります。

講演会は印刷の前工程が母体のGCJとは大変親和性の高い『AI』の活用術、パネルディスカッションは各社の若手社員をパネリストに迎え、『AI』と共存の現場の声を共有します。ご期待ください。



松浦実行委員長の大会説明

全日本スクリーン・デジタル印刷協同組合連合会

第55回 全国大会 in 北海道
開催報告

令和8年5月28日(木)、札幌市のプレミアホテルTSUBAKI札幌におきまして、第55回 全国大会 in 北海道を北海道組合の担当で開催しました。

当日は全国から71名が参加しました。

午後5時、石塚博臣副会長の開会挨拶で始まり、担当組合を代表し、北海道組合の石田勝年理事長より歓迎挨拶が行われた後、内藤正和会長が挨拶を行いました。

続いて来賓を代表し、日本スクリーン印刷資機材工業会の鳥居勇一会長から挨拶をいただきました。

この後、来年の第56回全国大会を担当する愛知組合の吉見正彦理事長より、同大会が令和9年5月27日(木)に名古屋で開催されることが発表されました。

続いて『スクリーン・デジタル印刷界』の令和7年度表紙コンクールの結果が石田広報委員長から発表され、受賞各社の表彰が行われました。

引き続き、新規事業委員会の辻巻晋輔委員長と野田哲也副委員長から、東京造形大学とのコラボ事業である「SILKSCREEN TRIAL 2026」、リニューアルした連合会ホームページの内容と連合会YouTubeチャンネルのコンテンツについて説明が行われました。

最後に佐竹博志副会長の挨拶で午後5時55分に閉会しました。

休憩を挟んで午後6時より、北海道組合の川村高広専務理事の司会により、懇親会を開催しました。賛助会員を代表し、十条ケミカル株式会社の小山裕社長の発声で乾杯が行われ、宴が始まりました。

コース料理のほか、北海道名産がずらっと並んだbuffet、北海道各地の日本酒、ワイン、ウィスキーが揃ったお酒のコーナーが設けられ、美味しい食事とお酒を堪能しました。またビンゴ大会も開催し、数々の北海道名産品が当たるとに歓声が上がりました。最後まで会場は大いに盛り上がり懇親を深めました。

最後は、山田忠博副会長の中締めで午後8時00分に閉会しました。



全日本光沢化工紙協同組合連合会

令和8年 通常総会

全日本光沢化工紙協同組合連合会は、令和8年5月26日(火)に第59回 通常総会を午後6時に東京会館大手町「シルバールーム」にて開催した。

はじめに木村会長より「平素は組合事業並びに組合活動にご理解ご協力を頂きまして誠に有難うございます。私たちの印刷業界、特殊加工業界におきましては、多くの企業が原材料コストの上昇や人手不足といった課題に直面した一年でした。価格値上げもまだまだ不十分な面があるのが実態です。また業界特有の物流費負担問題、古い商慣行など改善が望まれる諸問題も多く残されています。組合としての喫緊の課題はこれらの諸問題を解決していくことと考えております。本日の総会が、これら諸問題解決のスタートとなるよう願っております」と挨拶があった。

次いで木村会長が議長に選任され、議案審議に入った。第1号議案から第4号議案まで原案通り可決決定された。第5号議案の理事及び監事選挙の件では、関東特殊加工協同組合から理事8名と監事1名、関西光沢加工紙協同組合から理事4名と監事1名、中部光沢化工紙協同組合から理事2名と監事1名が選出され承認、了承された。第6号議案では傘下組合の事業報告が行われ、滞りなく終了した。

新役員

会 長 木村 亨 (関東)

副 会 長 高見正行 (関西)、中島充晴 (中部)、浅野貴之 (関東)、中澤康樹 (関西)、吉池法子 (関東)、滝藤寿士 (中部)

専務理事 長谷川太一 (関東)

理 事 小原 隆 (関東)、吉田純一 (関東)、堀 知文 (関東)、長谷川広重 (関東)、荻原真人 (関西)、中原秀記 (関西)

監 事 宮下岳人 (関東)、新 秀樹 (関西)、杉浦克彦 (中部)



2026年 4 月 Apr. 2026

2(木)	グリーンプリンティング制度概要説明会	*
14(火)	グリーンプリンティング認定工場更新説明会 オフセット印刷部門	印刷会館 202・203
21(火)	グリーンプリンティング申請書作成説明会	*
	第1回 環境表彰制度検討WG	*
22(水)	第65回 グリーンプリンティング認定工場交流会	*
23(木)	グリーンプリンティング認定工場更新説明会 グラビア印刷部門	*
27(月)	プライバシーマーク審査員勉強会	日印産連会議室 *
	第221回 プライバシーマーク審査委員会	日印産連会議室 *

2026年 5 月 May. 2026

7(木)	グリーンプリンティング制度概要説明会	*
11(月)	第1回 ステアリング・コミッティ (運営委員会)	印刷会館2F 大会議室 *
14(木)	労働安全衛生法令の「新たな化学物質管理規制について」* セミナー (追加開催)	*
20(水)	日本印刷会館 株主総会	印刷会館5F 会議室
	第1回 理事会	印刷会館2F 大会議室 *
21(木)	グリーンプリンティング申請書作成説明会	*
25(月)	第1回 グリーンプリンティング推進部会 GP周知活動WG	*
	プライバシーマーク審査員勉強会	日印産連会議室 *
	第222回 プライバシーマーク審査委員会	日印産連会議室 *
26(火)	第2回 環境表彰制度検討WG	日印産連会議室 *
29(金)	JPC表彰式	グランドヒル市ヶ谷

2026年 6 月 Jun. 2026

2(火)	グリーンプリンティング制度概要説明会	*
3(水)	造本装幀コンクール 審査会	出版クラブビル
10(水)	印刷図書館 定時評議員会・理事会	ホテルニューオータニ
	第41回 定時総会・第2回 理事会	ホテルニューオータニ
15(月)	第83回 グリーンプリンティング工場認定委員会	*
22(月)	プライバシーマーク審査員研修会	日印産連会議室 *
	第223回 プライバシーマーク審査委員会	日印産連会議室 *
23(火)	グリーンプリンティング申請書作成説明会	*
24(水)	第1回 グリーンプリンティング推進部会	*
30(火)	環境自主行動計画WG	*

*WEB開催、併用の会議



事務局だより

梅雨明けが待たれる今日この頃、日ごとに蒸し暑さが増し、本格的な夏の訪れを感じる季節となりました。

今年も厳しい暑さが予想されていますが、世界各地ではスポーツの大きな大会が開催されるなど、明るい話題も聞かれます。目標に向かって挑戦する選手たちの姿に元気をもらいながら、暑さに負けず過ごしていきたいものです。

さて、6月10日(水)にホテルニューオータニにて、第41回定時総会を開催致しました。今年は改選期となる為、総会終了後懇親会も行われ、多くの方にご参加いただくことができました。

当日ご出席いただきました役員・賛助会員の皆様、報道関係者の皆様、誠にありがとうございました。ご承認いただいた方針のもと、これからの一年、皆さまとともに着実に取り組みを進めてまいります。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

定時総会の模様は、今号の特集記事として2ページから掲載しております。

主催コンクール関連では、「第65回 2026年 ジャパン パッケージング コンペティション」の授賞式を5月29日(金)にホテルグランドヒル市ヶ谷にて開催し、「第59回 造本装幀コンクール」の審査会が6月3日(水)に行われ、入賞作品が決定致しました。

授賞式の模様や、入賞作品につきましては、P.24に詳細を掲載しております。

【表紙デザイン 作品プロフィール】

共同印刷株式会社 プロモーションメディア事業部コミュニケーションデザイン部 コーポレートコミュニケーションデザイン課

クリエイティブ力の高いディレクターを中心に、企業の戦略や価値を質の高い表現で伝えるコミュニケーションを生み出すチーム。

表紙デザインは「色で紡ぐ、四季の印刷。巡る季節と変わらぬ品質」をテーマに、躍進性・改革性・爽快感を現代的かつポップに表現。

7月号は、朝顔や金魚をあしらひ、夏らしい輝きと涼やかさを描いている。

次号は、9月9日(水)に開催される「9月印刷の月」記念式典の模様を特集する予定です。

現在、式典に向けての準備も進めております。節目の行事として、日頃から支えてくださっている皆さまにお集まりいただき、直接お話できる貴重な機会となることを願っております。

当日お目にかかることを、事務局一同心より楽しみにしております。

どうぞ皆さま、季節の変わり目、体調にはくれぐれもお気をつけてお過ごしください。

新しい職員を紹介します。



常務理事

佐藤 久恒

TOPPAN様より出向



発行日 2026年7月21日

発行人 高島 淳一

発行所 一般社団法人 日本印刷産業連合会

〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8

日本印刷会館8階

TEL 03(3553)6051

FAX 03(3553)6079

<https://www.jfpi.or.jp>

グリーンプリンティング公式キャラクター
2代目「ジッピー」として
新しく生まれ変わりました!



ぼくジッピー!
新しくなったぼくが
GPを紹介するね

ジッピー

グリーンプリンティング(GP)は、印刷によって生じるさまざまな地球環境への負荷を減らすために生まれた制度です。

20周年の節目に、公式キャラクターが新しく生まれ変わりました。

ジッピーとともに、GPの魅力をよりわかりやすく伝えていきたいと考えております。

●GP紹介1分動画



グリーンプリンティングのことを
ジッピーが短く・やさしく1分で紹介。営業現場で
“説明の手間が減る”動画になっております。

Q グリーンプリンティング



一般社団法人 日本印刷産業連合会
Japan Federation of Printing Industries
〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 日本印刷会館内
TEL 03-3553-6051 FAX 03-3553-6079
<https://www.jfpi.or.jp/>



GREEN PRINTING JFPI
P-D10019
この印刷製品は、環境に配慮した
資材と工場で製造されています。

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。